

平成26年度 同好会事業報告

「子どもの心を感じる会」同好会 世話係名 宮坂 俊之 会長名手塚 里子

月 日	実施した事業内容	参加人員
5月 2日	○役員選出 ○指導者決定	9人
7月30日	○講演会 講師 馬場博雄先生 (長野県若槻養護学校) 演題「子どもの声を聴く」 ～子どもとよい関係を築くために～ ・スライドを用意していただき、事例の具体からお話をいただいた。 ○投影法演習 ・フィンガーペインティング ・コラージュ ・実際に他者の思いを意識しながら、グループワークを行った。	14人
2月	○まとめの会 ○投影法演習(箱庭)	

「言葉」ではごまかせても「表現」には心そのまま反映され、自分自身が驚くことさえあります。「子どもが発信している心を受け止める感性を磨く。」同好会の活動目標です。今年度も本同好会では「子どもの心感じる窓口を拓げるために」をテーマに研修を進めました。

夏期研修会では、たくさんの事例をお持ちの長野県若槻養護学校の馬場博雄先生をお迎えし「子どもの声を聴く～子どもとよい関係を築くために～」としてお話をいただきました。馬場先生が出会ったたくさんのお子さんへの思いを込めて、「『教師の悪意のない正義』に傷つけられている子ども達がいること。」「子ども達のやさしさに教師が救われていることが多い。」などのお話をお聞きし、日常を振り返ると「ああ～自分もやっているなあ」と思うことがたくさんです。さらにそんな思いをさせている子ども達が、先生を思いやってくれていることに熱い思いがこみ上げました。

午後は、グループワークで「フィンガーペインティング」とそれを用いての「コラージュ」を体験しました。両方とも個々に作業することが多いのですが、グループで行うことで、前にペイントした・置いた人の思いを感じながら自分がそこにかかわる経験をし

ました。思いを重ねながらの活動は結構エネルギーがいるものです。日常子ども達にかかわる自分は、子ども達の表現の何を感じながらかかわっているのかと考えさせられました。

非日常の活動に浸るので「勤務日の夕方」の同好会日には例会が持てず休日になることが多い本会です。「療法」と言われることもある投影法ですが、それ以前に子ども達の心が投影されている「表現」を前にして「耳と目と心を持って子どもの心を聴ける」感性を磨きたいと思っています。

3学期にはグループワークで「箱庭」作品を作ってみたいと考えています。

手塚 里子（日野小学校）